

佳作

わたしだけが知っている音の世界

鹿児島県 鹿児島市立石谷小学校三年 隈元 奏江

わたしは、生まれた時から、両方の耳が聞こえません。少しでも音が聞こえるようにと三才の時に右耳に人工内耳を入れる手じゅつをしました。でも小さかったのでよくおぼえていません。一つだけおぼえていることがあります。それは、手じゅつの後のきずがともいたかったことです。だからもうぜったいしたくないと思っていました。

「かなえちゃんも、手じゅつしないの。いたいけどまたがんばってみたら。」

とお母さんや両方の耳に人工内耳の手じゅつをした友だちから、何回も手じゅつをすすめられました。でもわたしは、どうしても手じゅつをするゆう気が出てきませんでした。

三年生になってから、友だちと話をしている聞いていてもわからないことが多くなってきました。そ

して音楽の時間にみんなでいっしょに歌を歌う時におくれたり、音の長さや高さが中でわからないことが多くなってくやしいことがありました。音楽の時間がいやだな、と思うこともありました。

「お母さん、わたし、手じゅつやってみようかな。」
「え、大じょうぶ。わかった。家族みんなでがんばろうね。」

とお母さんがうれしそうに言うてくれました。夏休みには手じゅつをすることに決まりました。だから今年は大すきな水泳学習もできません。手じゅつをするまで何回かけんさもしました。

夏休みになっていよいよ手じゅつをする日になりました。手じゅつ室に入るといろいろなきかいや道具があつて少しこわくなつてきんちようしてききました。まずいが体の中に入ってきたら、いつの間にかねむっていました。目がさめると手じゅつは、終わっていました。だんだんきずがいたくなつてきたけど、薬をのんでがまんしました。次の日には、もういたくなかつたので安心しました。

いよいよ左耳の人工内耳に音を入れる日がきました。スイッチをオンしたら、ピーピーとほちょうきよりも大きい音がしたのでびっくりしました。

「かなえ、パンパンパン。」

とお母さんが手をたたきながら後ろから、わたしをよびました。

「わたし、右耳から、かなえ。左耳から手をたたくのが、聞こえたよ。」

と言いました。

「え、すごい。それって、かなえだけだよ。かなえだけの音の世界だね。」

と言いました。これが両方の耳に人工内耳がついた「わたしだけが知っている音の世界」なんだ。これから、左耳からもいろいろな音が聞こえてくるのかと思ったら、なんだかわくわくしてきました。リハビリももっとがんばりたいと思えました。そして、わたしだけが知っている音の世界をこれからまたどんどん広げていきたいです。